2026 年 11 月 13 日

各　位

会 社 名　旭ダイヤモンド工業株式会社
代表者名　代表取締役社長　片岡 和喜
（コード番号 6140　東証プライム）
問合せ先　執行役員管理本部長　日下部　均
ＴＥＬ（03）3222-6311

中間連結財務諸表に係る期中レビュー報告書の限定付結論に関するお知らせ

当社は、2027 年３月期の中間連結会計期間に係る中間連結財務諸表において、限定付結論のついた会計監査人の期中レビュー報告書を 2026 年 11 月 13 日に受領しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．監査を実施した監査法人の名称

あると築地有限責任監査法人

２．中間連結財務諸表に係る期中レビュー報告書の内容

2027 年３月期の中間連結財務諸表に係る期中レビュー報告書に記載された内容は以下のとおりであります。

限定付結論の根拠

会社は、持分法を適用している在外関連会社である新韓ダイヤモンド工業株式会社から、当連結会計年度の第１四半期連結会計期間及び第１四半期連結累計期間に係る当該構成単位の財務情報を入手できているものの、同社の経営体制変更による影響により、当連結会計年度の中間連結会計期間に係る当該構成単位の財務情報を入手できなかった。

このため当監査法人は、当連結会計年度の中間連結会計期間の内、第１四半期連結会計期間及び第１四半期連結累計期間以外の期間に係る当該構成単位の財務情報について、質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施することができず、当中間連結会計期間末の当該持分法適用会社に係る投資有価証券（2026 年９月 30 日現在 7,068 百万円）の評価の妥当性について、結論の表明の基礎となる証拠を入手することができなかった。

この影響は、当中間連結会計期間の投資有価証券及び持分法投資損益等の特定の勘定科目に限定されており、当該影響を除外すれば、中間連結財務諸表は、旭ダイヤモンド工業株式会社及び連結子会社の 2026 年９月 30 日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。したがって、中間連結財務諸表に及ぼす可能性のある影響は重要であるが広範ではない。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関

する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、限定付結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

３．期中レビュー報告書の受領日

2026 年 11 月 13 日

４．今後の対応

当社は、限定付結論に至った事態を厳粛に受け止め、適切に対処してまいります。株主の皆様をはじめ投資家、市場関係者の皆様ならびにお取引様その他すべてのステークホルダーの皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

以　上